

明日の大地

北海道新篠津高等養護学校

学校だより

令和4年度 第2号 12月23日発行

Tel 0126-58-3280

HP <http://www.shinko.hokkaido-c.ed.jp>

開校 30 周年記念式典を終えて

学校長 久富 正規



開校 30 年の節目に当たって今年度の行事に「開校 30 周年記念」の冠を付け、また、30 周年記念ロゴも作成し、学校発信の文書等にも使用していますので皆様にも目にさせていただいていると思います。

10月21日（金）に開校 30 周年記念式典を挙行了いたしました。式典に併せて記念誌を作成し、式典当日は、御来賓に新篠津村石塚村長様、新篠津村荒谷教育長様、松本PTA会長様、佐藤進路・卒後支援後援会長様に御臨席賜り、今田自動車商会今

田様と北海道自閉症協会会長上田様には、これまでの本校への多大なる御支援に感謝状をお渡ししました。式典の中では、3 学年生徒会副会長の佐々木猛さんが生徒を代表しての挨拶、思い出のスライドも御覧いただきました。御来賓の人数の制限、式次第の縮小などの感染症対策を講じながらも全校生徒が一堂に会して式典が挙行できましたことは、大きな喜びであり、式典後に感染症が広がらなかったことで安堵したところです。式典後には、御来賓の皆様から「生徒が落ち着いて大変立派だった。」「式から学校を大切に想っていることが伝わった。」などの言葉もいただきました。

30 年を振り返り、これからに向けて一層努力を重ねていかなければならないと感じる機会でした。様々な御協力、御支援に改めて感謝申し上げます。

進路指導部から

進路指導部長 木元 稔 敦

新型コロナウイルス感染症が広がってから 3 年目となり、最近では北海道でも感染者数が 1 万人を超えるようになってしまいました。このような状況下にもかかわらず、新篠津村や近隣地域、生徒の居住地域の多くの事業所の方のご協力により、現場実習を無事終了できましたことに心より感謝いたします。

幼さと大人な部分の両方を持つ生徒たちにとって、この現場実習は卒業後の「社会人として働く生活」を具体的に体験できる貴重な機会となります。この体験を通じて得た成果・課題をもとに、「学生」から「大人・社会人」へと大きく成長することが期待されます。ただ、このような成長は、まだまだ細く弱い樹木が大樹へと成長するのと同じように、多くの時間や周囲からの支援が必要です。支援がなければ違う方向へ手を伸ばしてしまったり、周りが急いでも本人が気づくのに時間が必要だったり、「大人・社会人」への成長は生徒によっても様々です。卒業生の様子を見ると、作業能力に関わる課題よりも対人関係や周囲の想いを受け入れられず、気持ちに折り合いをつけられないなど、心や気持ちの面で課題を感じる場合があります。様々な個性を持つ生徒たちの目あてを探りながら、「大人・社会人」への成長につながるように取り組んでいきます。

今後とも御支援、御協力のほどよろしくお願いいたします。



現場実習

・ 1 学年

進路指導部 村尾俊輔

9月28日（水）から10月5日（水）の6日間、1学年の生徒たちは、新篠津村（8）・当別町（5）の計13の事業所とバス会社、お弁当業者、そして保護者の皆様のご協力の下、大変有意義な実習を行うことができました。はじめ生徒たちは緊張の面持ちでしたが、仕事を教わりながら一生懸命働くことで、仕事の大変さだけでなく職場での挨拶や言葉づかい、人間関係作りの大切さなどに気づくことができました。特に、事後学習での反省で自分の課題を実感できたことが最大の収穫であったと思います。

次年度、この実習の経験を生かし、生徒一人一人が進路を選ぶ一助としてくれればと期待しています。



・ 2 学年

進路指導部 佐藤隆夫

2学年の現場実習は、1年生より4日ながい10日間で行っています。新篠津村の皆様や岩見沢市の企業様の御協力をいただいた引率実習。生徒の地元の企業様に御指導いただいた単独実習。どちらの実習も

「生徒のためになるのであれば」と、職場の仕事を提供してくださいました。運動公園のジャングルジムや除雪ポールの塗装、客室清掃、ビールハウス内の片付け、接客、商品整理、クリーニング、調理、食品加工等々、この実習で生徒たちが行った仕事はどれも誰かの役に立っています。働く厳しさと喜びを知ることができたとても有意義な実習でした。

御協力くださいました企業様、保護者の皆様に感謝申し上げます。生徒の皆さん、10日間お疲れ様でした。



・ 3 学年

進路指導部 藤原由里子

3学年は、卒業後の就労・雇用を想定して、「前提実習」という形で2～6週間の現場実習を行いました。大人ばかりの職場に高校生が一人で赴き、慣れない環境で、分からないことばかりの中で、初めて会う人と未経験の仕事に従事することは、本当に大変なことだと思います。実習前には、「緊張しています」の声が多く聞かれました。しかし、巡回時には、みなさんから「仕事が楽しい」という声を多く聞くことができました。自分が手や体を動かすことで製品が形作られていたり、お客様にサービスが提供できることへの楽しさであったり、人と関わりながら何かを成し遂げていくことの喜びをそれぞれが感じているのではないかと思います。社会の中で実際に働くことで内面的な深まり、発展が得られたことと思います。

あと3ヶ月ほどの学校生活、働く生活に向けて最終の準備をしていきましょう。



新高祭 学年発表

・ 1 学年

担当 平尾 祐輔

1 学年は、学校祭で「SDGs」の取り組みについて、ステージで繰り広げられる演劇を中心に進行しつつ、研究発表的な活動も取り入れながら披露いたしました。「それぞれの人が、自分の立場や長所をもとに、無理せずできることを積み上げていく」という SDGs の理念を、1 学年の生徒たちは学年発表を完成さ



せるまでの過程からも感じ取りながら準備・上演していたのではないかと思います。

これから先の長い人生を歩む生徒たちが、自分だけでなく他者も、自分を取り巻く環境も、大切にしていけるようになるきっかけになれば、と思っています。

会場並びに Web 配信上でご観覧いただき、誠にありがとうございました。

・ 2 学年

担当 大澤 明子

2 年生は全員参加の「演劇」にこだわりました。7 月のオリエンテーションの段階から演劇に取り組む意味・意義について説明やワークショップを行い「表現は面白いものだ」を大切に取り組んできました。これはゆくゆく表出やコミュニケーションに結びつく活動と考えてのことです。早い段階から台本を提示し「役」に対する共感やイメージを生徒自身に作らせました。「無」から生徒の面白い観点や発想を大事にして作り上げた劇です。各活動グループでは自由に意見を出し合い、お互いをカバーし協力したことで、突然の変更にも混乱なく落ち着いて対応できていました。これが底力なのだと思います。笑顔が多く充実した活動となりました。



・ 3 学年

担当 佐藤 吉樹

一昨年、昨年と映画祭形式の新高祭を行いました。今年もライブでの新高祭で生徒たちの気合の入り方も一段と高まっていたと感じました。今年も 2017 年にアメリカで公開された映画「グレイテスト・



ショーマン」と Official 髭男 disarm の「ユニバース」をアレンジして、歌や踊りを演じました。リボン、ゴース、旗を使い、優雅にそしてキレのあるダンスを披露し、また各パートに分かれて「ユニバース」を合唱し、美しいハーモニーを体育館いっぱいに響かせました。練習から本番まで生徒と先生が一丸となって取り組み、本番後は感極まって涙を流す人もいました。高校生活最後の学校祭に相応しい素敵な演技になりました。

観覧に来て下さった保護者の皆さま、ありがとうございました。

宿泊研修

・ 1 学年

担当 佐藤輝明

7月7日(木)から一泊二日の日程で新篠津村と札幌市を中心に行いました。今となっては懐かしく感じる暑さの中、初日は新篠津村で社会見学の要素を取り入れ、役場と農業協同組合の施設を見学しました。村の行政機関と農作物の施設見学は、直前まで授業で学んでいた「地域を知る」内容と関連し、大きくうなずきながら説明を聞く生徒の姿が印象的でした。その後、札幌市に移動し、



博物館や科学館、札幌ドームを見学し、北海道青少年会館コンパスで宿泊。見たり、聞いたり、試してみたりと、普段の学校生活で見られる以上に好奇心あふれる表情で生徒たちは活動していました。

二日目は学級ごとに札幌市内で自主研修です。事前学習で綿密に計画を立て、多少の変更も都度計画を練り直し、仲間と協力し合いながら時間いっぱい活動することができました。

・ 2 学年

担当 山田勇氣

一日目はクラス別自主研修。地下鉄やバスに乗って、白い恋人パーク、裁判所で模擬裁判、青少年科学館、道議会、芸術の森など各クラスの特徴を生かした研修となりました。宿泊先ではそれぞれで持ち寄ったカードゲームで楽しむなどいつもは見られない生徒たちのかかわりを見ることができました。二日目はさっぽろさとらんどでのピザと肉まんの手作り体験。昨年度も学校での調理実習ができていなかったため、調理体験はほぼ初めて。生地をこねたり、丸めたりみんなとても楽しそうでした。今回は初めてiPadを各クラス1台ずつもって研修をする新しい取り組みにもチャレンジし、自分たちの生活を自分たちで見直す貴重な機会にもなりました。2学年としての団結も深め、それぞれの良さや新しい関係性を育むことができた貴重な一泊二日でした。



3 学年 見学旅行

担当 近藤和也

GWが過ぎ、実施できるかどうか日々ニュースを注視しながら過ごした事前学習。そんな中、5月24日(火)無事に新千歳空港から関西方面へ飛び立つことできた3年生。生徒の笑顔が弾ける機内でした。

初日は世界遺産の姫路城に。気品と雄大さに圧倒されながら、頂き目指して笑顔で駆け上る生徒たち。二日目は二条城や鹿苑寺金閣、清水寺、



伏見稲荷大社など京都市内の歴史的観光名所を巡りました。

三日目はグループごとに計画したコースを仲間とともに巡り、目で舌で肌で関西地方の醍醐味を堪能しました。最終日は大阪城をバスから眺めながら帰路につきました。

北海道では味わうことのできない歴史や文化、そして味を満喫した四日間の見学旅行でした。



全道障害者技能競技大会

担当 佐藤 吉 樹

11月4日（金）～11月6日（日）まで、千葉県幕張メッセ国際展示場にて第42回全国アビリンピック（全国障害者技能競技大会）が行われました。本校から、木工科3年佐々木 猛さんが出場しました。この大会は制限時間5時間以内に木材で「蓋付き小箱」を製作する競技です。「のこぎり」「のみ」「かな」などの工具を手作業で作り完成度を競います。地方大会を勝ち抜いた10名の選手が自らの技を最大限使って、緊張した雰囲気の中、0.1mmの世界を戦ってきました。

残念ながら入賞は逃しましたが、高いレベルを肌で感じとても刺激を受けてきました。佐々木さん本人は、「この経験を今後活かしながら残りの学校生活を頑張りたいと思います。」と感想を述べていました。



サマースクール

担当 鹿 糠 和 華 子

7月25日（月）、本校において、村内の小学生を対象とした学校開放講座「しんしのつ・サマースクール」が開催されました。小皿作り（陶芸）、木製時計作り（木工）、布製コースター&小物入れ作り（縫工）の3つの講座が開かれ、それぞれ作品作りを楽しみました。小皿は、のし棒で粘土を伸ばして成形し、好きなスタンプで凹凸模様をつけながら作成しました。木製時計は、糸鋸を使って好きな動物の形の時計を作りました。布製品は、好きな柄の布を選び職業用ミシンを使いながら作りました。初めての参加ではなく、2回目の参加という小学生もいました。本校が身近な存在になり、夏休みの素敵な思い出のひとつになってくれたらと思います。



オンラインオープンスクール

担当 佐藤 輝 明

12月5日（月）から3日間、今年度2回目となるオープンスクールを実施しました。中学1、2年生を対象に、石狩、空知、上川管内から延べ400名を超える参加です。オンラインで作業学習の説明と参加者からの質問に回答する内容で、説明では参加者が興味関心をもちやすいよう、実演や製品の紹介、クイズを出題するなど様々な工夫がなされ、質問に対しては、経験と主観を交えてとても分かりやすい回答をしていました。参加者は真剣で折笑顔を浮かべながら先輩のお話を聞いていました。参加された中学生にとって今後の進路について考える一助になってもらえたらと思います。また、「とても分かりやすい説明でした。」「高校生はすごいです。」などの感想を参加者からいただき、先輩として自信につながったと思います。今後の更なる飛躍に期待します。



しんしのつ会

担当 下 沢 曜 子

2年ぶりに開催された『しんしのつ会』は、5月と7月の2回、行うことができました。1回目は52名、2回目は43名の参加でした。例年と違う形でしたが、新型コロナウイルス感染リスクを少なくするため、一つの会場の参加者が10名前後になるよう会場を二つに分けるなどの配慮をしました。会が始まる



と、なごやかな雰囲気の中、お互いの最近の様子を伝え合いました。また、ビンゴゲームなどをして景品を受け取り、満面の笑顔の方もいました。久しぶりに会うお友達や先生方とのお話に夢中になるなど、参加された方々は、楽しいひとときを過ごしていました。3回目の『しんしのつ会』は、11月27日に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、残念ながら中止となりました。

次回は、2月を予定しています。

令和4年度学校運営協議会

副校長 川 口 毅

本校は一昨年度から「学校運営協議会」を導入し、コミュニティ・スクールとなりましたが、立ち上げと同時期に新型コロナウイルス感染症の大流行が起こったため、開催がままならず、過去2年間とも年間3回の予定が1回のみで開催となっています。

今年度も開催時期が第7波、第8波と重なり、延期した後に中止となりました。今年度最後の協議会を2月中旬に予定しています。そこでは、今年度の学校評価、来年度の学校運営方針などについて委員の皆様から御意見をいただく予定です。地域の方々とともに本校の現状、課題を協議し、本校への期待を語っていただくこの機会を大切にしたいと考えています。来年は、是非3回とも開催し、深い協議を行えることを願っています。



《編集後記》

今年度も、予定通りの教育活動が行えない一年でしたが、できるだけ早くコロナウイルスの感染が治まり日常を取り戻すことができますように祈りながら、学校全体「チーム新篠津」として邁進していきたいと思えます。

来年は素晴らしい1年になりますよう、皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

